



## 2年生 そだつかな?ぼく・わたしのやさい

# 継続した観察カードを活用して劇を創る～探究と伝え合う活動の一体化

## 1 はじめに

今回の学習指導要領におけるキー・ワードは「探究」であり、「伝え合う活動」であり、「基礎・基本の習得」である。そこで、タネをまき（あるいは苗を植える）、世話をし、成長の様子を観察し続け、収穫できた喜びを感じる活動を事例にして、それらを可能とする手立てを紹介してみたい。

## 2 探究

探究の基礎は「目的」を持つこと、「計画」を立てることにある。そこで、タネをまく（あるいは苗を植える）際に自分の笑顔の写真と収穫頃の様子の写真を探させ、画用紙の中央に貼る。タネの絵を右上側に描く。



「本当に最後まで世話をして育てることができるかな」ということを想像させ、世話をしている自分の姿を周囲に描かせる。また、それを紹介し合っただけで気づくことができた新たな世話を描く。これが計画を立てることとなる。

探究は、継続的な「実践」と「反省」を通して実現する。その際、「肥料をまいたので、野菜の葉が大きくなって増えてきました。やったあ。」とか、「水やりを忘れていたので、しおれてきていました。大変。」とか、世話した様子と成長の様子、自分の心の中などを関連付けながら観察カードを書くことが重要となる。したがって、子どものつぶやきを聞きとめ、それを観察カード

に書くことよきことを示唆することが、教師の大切な働きとなる。

また、探究は、必要な調べを取り入れていく「研究」によって充実していく。例えば、次第に、肥料の問題、間隔の問題、支柱の問題などが話題となる。そういった問題が起きるたびに話題として設定し、本で調べたり、農家の人（野菜の栽培に詳しい人）にインタビューしたりすることが大切となる。そして、その問題と調べたこととその後世話を関連付けて観察カードに書かせていくとよい。特に、農家の人（野菜の栽培に詳しい人）に教えていただくということは、同時に自分たちの世話についても評価を受けることになる。子どもたちに、「世話がすばらしいから、りっぱに育っているよ」とか、「～すると、もっと育つよ」とかいった言葉を通して、自分の世話の仕方を反省する場ともしていくことが大切となる。

## 3 伝え合う活動

以上の継続した世話・観察・研究を書き込んだ観察カードが、成長にしたがって増えていく。そこで、定期的に、あるいは収穫後に、その蓄積した観察カードを読み直し、グループで劇を創って発表する活動を取り入れる。

その際、最初に作成した左図の計画をもとにした反省もセリフとして組み込ませる。そして、完成した台本をもとに、タネ役の子の演技や成長過程役の子の演技を考えさせる。

このような観察カードを活用して劇を創って発表することによって、主体的に目的を持った伝え合う活動が実現していく。また、劇を創る過程において、生活科の基礎・基本も習得されていく。

## 4 おわりに

以上、探究と伝え合う活動の一体化を図ることによって新学習指導要領の主旨を活かすことができることを紹介した。